

傘松城

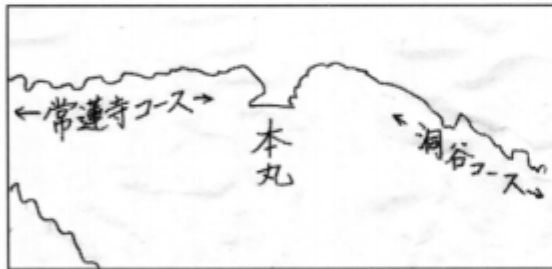
からかさまつじょう

別名 吉田城

吉田字洞山・内洞・宮ヶ洞、寺林字オトシ・脇洞・小屋場、釜崎字沢上平



吉田白山神社から傘松城を望む



どんな所なの

吉田地区は、神岡町の東南に位置し、高原川の支流である吉田川にそって開けた南北4kmにわたる集落である。地名の由来については、「古へ此村に、豪族吉田何某、代々住居せし村故、終に村名に成しとぞ」（『斐太後風土記』）とある。

なお、一説には、「往古吉田は葦の生い茂る地を開墾して葦田と云った。後、『あしだ』の『あし』を吉の字に読み替え、『吉田』と云うようになるといわれる」（『神岡の地名四』）とある。

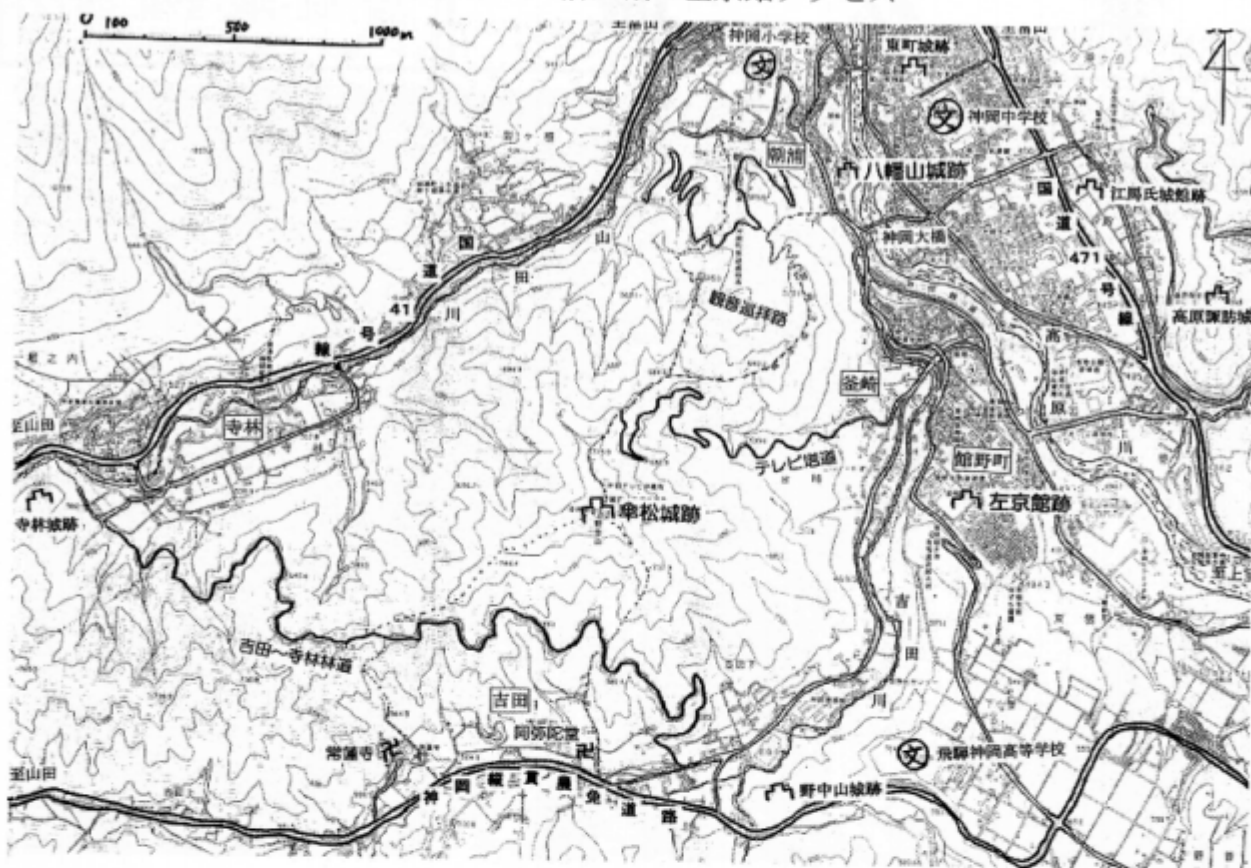


城跡への道

洞谷コース

神岡市街から神岡大橋西詰の信号を過ぎ、吉田方面・常蓮寺をめざす。釜崎橋をわたり、およそ二〇〇〇m進むと、「神岡縦貫農免道路」にぶつかる。右に折れるとすぐ道路の右側に「阿弥陀堂」があり、その脇に「傘松城入り口」の標柱が立っている。

傘松城・八幡山城・左京館アクセス



阿弥陀堂背後の一車線の坂道を登ると、傘松城コースと書いた案内板があり、そこから山道に入る。十五分ほどで吉田―寺林林道に出るが、すぐにまた、林道の山手側につけられた急坂を登り、尾根道に入る。登ること二十分あまりで最初の曲輪跡があり、さらに二〇〇mばかり登ると主郭（本丸）にたどり着く。

なお、林道の吉田からの入口は、立山科学工場（旧吉田小学校）上手の向かいである。

常蓮寺コース

「阿弥陀堂」から上流に五〇〇mばかり進むと、「常蓮寺」が右手の小高い地にある。この寺の裏山からも城に登る道「常蓮寺コース」がある。およそ二十分で吉田―寺林林道に出る。少し上方右手に林道竣工碑があり、かたわらに傘松城登り口の標柱が立っている。比較的ゆるやかな尾根道を約三十分で主郭（本丸）に達する。

寺林林道コース

国道四十一号線を神岡から高山へ向かい、寺林で山田川をわたり、吉田―寺林林道を登る。頂上を越えると林道竣工碑と傘松城登り口の標柱がある。この先は常蓮寺コースと同じ。

テレビ塔からのコース

「釜崎橋」の先で右手脇道に入り、テレビ塔への林道